

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所属 保健医療学部

名前 吉田 一也

作成日 2026年4月27日

1. 責務（何を行っているか、何を果たしているか）

本学で担当する科目は、運動学実習（必修・2年）、理学療法評価学演習Ⅰ（必修・2年）、骨関節系理学療法学（必修・2年）、骨関節系理学療法学演習（必修・2年）、スポーツ理学療法学（選択・3年）、理学療法特論Ⅰ（必修・3年）、理学療法特論Ⅱ（必修・4年）、理学療法学見学実習（必修・2年）、理学療法評価学臨床実習（必修・3年）、地域理学療法学臨床実習（必修・3年）、総合臨床実習Ⅰ（必修・4年）、総合臨床実習Ⅱ（必修・4年）、理学療法学総合演習Ⅲ（必修・2年）、理学療法学総合演習Ⅳ（必修・2年）です。

教育活動としては、広報委員会と危機管理衛生委員会、就職対策ワーキンググループ（副委員長）に所属し、専攻内での役割としては臨床実習責任者を担当しています。

学生教育だけでなく、卒後教育や理学療法士育成のため、講演会や出版物にて医療従事者全体の教育に携わっています。

2. 理念（教育に対する考え方）

私の担当する科目では、理学療法士が行う理学療法評価、骨折や靭帯損傷、筋断裂などに対する理学療法、スポーツ障害の理学療法を学びます。学生時代に運動部に所属していた方が一番興味のある科目かもしれません。身体の仕組みを理解し、適切な理学療法評価と理学療法が行えるように実技中心に行っています。

その他に、臨床実習に関わる科目に携わっています。本学では医療や介護現場での臨床実習が用意されています。長期間に渡る臨床実習は大変かもしれませんが、理学療法士が活躍する現場で唯一行われる科目ですので、理学療法士の仕事内容や、医療従事者として必要とされているスキル（最新の知識・技術、接遇など）を肌で感じることができます。

患者さんや利用者さんから必要とされる理学療法士を目指して、4年間一緒に学んでいけたらと考えます。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの『「理学療法」を必要とする対象者（人間）について、心理的・社会的・文化的側面から多面的・総合的に理解できる知識を修得していること』から「骨関節系理学療法学」では、身体的なケアだけに留まらず、心理・社会・文化的な側面からのアプローチについても取り上げています。私たちの仕事は、人間を相手にした職業だという認識を持ち、より実践的能力の獲得を目指しています。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

「骨関節系理学療法学実習」の授業アンケートにおいて、ここ数年「画像や動画でわかりやすい授業」という学生評価をいただいています。教科書の内容をただ伝えるだけでなく、視覚的な情報教材を積極的に用いた授業を心がけています。今後は、アクティブ・ラーニングも積極的に取り入れ、学生さんたちの学習をさらに深められたらと思っています。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

コロナ禍での経験を活かして、対面での教育だけでなくオンデマンドの活用や自己学習の推進などに力を入れていきたいと考えています。

まず、短期的な目標として「学生の自己学習の定着化」を掲げ、学内での授業以外での自己学習時間の定着化を目指します。その後、各学生の進捗状況に合わせた学習方法のアドバイスやグループ学習を進め、自ら学び進める学生を育てていけたらと思います。学生の自己学習の定着は、半期で達成できるように促します。

* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

- * TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
(シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。)